



「ふれあい体験」 (中3)



10月9日(金)、中学部3年生が1～5 時間目の時間を利用して「ふれあい体験」に出かけました。訪問先は、本校児童生徒の弟妹も多く通う「ブラッセル日本人幼稚園」です。この活動は技術・家庭科(家庭分野)の一環であり、「①幼児に関心を持ち、関わり方を理解する」「②発達段階に応じて幼児への関わり方を工夫・実践する」という2つの目標をもって臨みました。

当日はあいにく「全国スト」の予定と重なり、一時は「最悪の場合は徒歩で向かおう」と覚悟を決めていましたが、メトロ5号線が間引き運転ながら動いてくれた

ため、無事に体力を温存したまま到着することができました。

活動の始まりこそ、お互いに少し距離感が見られたものの、一緒に熱帯魚の折り紙を折ったり、生徒たちが準備した遊び(福笑い、輪投げ、とんとん相撲)を楽しんだりするうちに、園児との心の距離はぐっと近づいていきました。5つの班に分かれてお弁当を囲み、3種類の紙芝居を披露し終え



た頃には、生徒たちにすっかりなついて寄り添う園児の姿も見られました。



帰りの駅のホームでは、「本当に楽しかった!」「将来、幼稚園の先生になりたい」といった声があがるなど、誰もが充実感に浸っていました。その一方で、「校長先生、6時間目の数学は勘弁してください!」という完全燃焼した生徒の切実な(?) 訴えもありましたが、私は「受験生の世界は厳しいものなんだよ」と、心を鬼にして答えるひと幕もありました。

マロニエ祭

ご存じの通り、10月11日(日)に本校を会場として、補習校・全日制 PTA 共催の「マロニエ祭」が開催されました。この行事は子どもたちも楽しみにしている大イベントで、数週間前から日常会話の端々にこの話



題が上がるほどでした。ここでは、全日制マロニエ委員による「古本市」と、全日制「おやじの会」が企画・運営した「むかしあそびコーナー」の様子をご紹介します。

まずは「古本市」です。毎年大人気のイベントということもあり、会場(体育館)

の入場規制を行ったため、入口を先頭にグラウンドまで長蛇の列(写真左)ができました。私は写真撮影のため一足先に会場入りしたのですが、開場と同時に先頭の高学年男子グループが漫画コーナーへ真っ先に向かっていく姿が印象的でした(写真右上)。日本の漫画や活字に触れられる機会を、皆とても楽しみにしていたようです。(はつ裏に続く)





続いて「おやじの会」の「むかしあそびコーナー」です。その前に、このお父さん方の会の名称について少し触れさせてください。「おやじの会」という名前から「昭和の父親のイメージ」を持たれるかもしれませんが、実際には「パパの会」や「お父さんの会」といった、スマートで爽やかなお父様方がたくさん活躍されています。その中にひととき若いスタッフがいるなどよく見てみましたら、なんと手伝いとして参加してくれていた中学3年生の生徒でした。頼もしい限りです。

さて、この「むかしあそびコーナー」は、嬉しいことに「参加無料」で開放されていました。ブース内には「ヨーヨーつり」「アヒルすくい」「ミニ四駆」「コマ」「ベイブレード」「将棋」などがずらりと並び、ここだけで半日遊べるほどの充実ぶりです。午後になってお話を伺ったところ、大繁盛につき用意していたヨーヨーやアヒルが足りなくなるほどだったそうです。当日朝の準備の際、かなりのストックがあるのを目にしていただけに、その大盛況ぶりには本当に驚かされました。

このマロニエ祭は、準備委員の皆様をはじめ、関係された多くの皆様のご尽力のおかげで、このように素晴らしい「集いの場」となりました。普段はなかなか交流の機会が少ない補習校と全日制が、心を一つにして協力し合えたことは本当に素敵なことだと思います。これまでのご準備と当日の運営、本当にありがとうございました。この場を借りて感謝申し上げます。

収穫の秋（栗拾い）

ご存じの通り「秋」は様々に形容されます。「読書の秋」「スポーツの秋」「食欲の秋」等々。古くから4つある季節の中で人々が「秋」を特別視するのは、待ちに待った「実りの季節」だからといった理由もあるのでしょう。



本校のグラウンドでも「小さな実り」があります。それは「栗」です。雨や風など、天候が荒れた翌日にはジャングルジムの奥周辺が「収穫の聖地」と化します。

今日も「収穫の喜び」を知った子ども達が「栗拾い」に夢中になっています。（皮むきは大変ですが、この栗は食べられます）



校長のつぶやき「実りの秋」

前の話題と少し重なってしまいますし、子ども達からは「校長先生は『食欲の秋』でしょ」と言われてしまいそうですが、私自身はいま、とても嬉しい「実りの秋」を迎えています。

私は毎朝、正門前で子ども達を「おはようございます!」と迎えています。実は、1学期の頃からあるお子さんに毎朝声をかけ続けていたのですが、ようやく最近、笑顔で「おはようございます」と挨拶を返してもらえるようになりました。

私にとって、これ以上の「実り」はありません。毎日の小さな積み重ねが実を結び、本当に嬉しい秋の訪れとなっています。

